

平成27年 7月31日

平成26年全国消費実態調査 主要耐久消費財に関する結果 結果の要約

- 総務省は、我が国における世帯の家計収支、資産などの家計の構造面を総合的に把握する調査として全国消費実態調査を5年ごとに実施。
- 今回、平成26年9月から11月にかけて実施した同調査の結果のうち、主要耐久消費財の保有状況について取りまとめた結果を公表。
- なお、次回の公表は、単身世帯の家計収支等に関する結果を平成27年9月に予定。

<所有数量（1000世帯当たりの所有台数）>

1 所有数量の増加率が高いのは、高効率給湯器、太陽光発電システム

- ・二人以上の世帯について、1000世帯当たりの所有数量をみると、たんす（2,803台）が最も多く、次いでルームエアコン（2,723台）、テレビ（2,162台）。（表1）
- ・前回（平成21年）からの所有数量の変化をみると、高効率給湯器（+346.2%）が最も増加し、次いで太陽光発電システム（+306.3%）。一方、太陽熱温水器（-46.0%）が最も減少。（表2）

表1 主要耐久消費財の1000世帯当たり所有数量
(二人以上の世帯)

	品目	所有数量 (台)
所有数量が 多い 耐久消費財	たんす(作り付けを除く)	2,803
	ルームエアコン	2,723
	テレビ	2,162
	ベッド・ソファ・ベッド(作り付けを除く)	1,482
	電気掃除機	1,419
	自動車	1,377
	カメラ	1,348

表2 主要耐久消費財の1000世帯当たり所有数量の増減率

(二人以上の世帯)

	品目	所有数量(台)		増減数 (台)	増減率 (%)
		平成21年	平成26年		
所有数量の 増加率が高い 耐久消費財	高効率給湯器 ^{※1}	52	232	180	346.2
	太陽光発電システム ^{※1}	16	65	49	306.3
	空気清浄機	416	554	138	33.2
	IHクッキングヒーター ^{※1}	190	241	51	26.8
	サイドボード・リビングボード	532	643	111	20.9
所有数量の 減少率が高い 耐久消費財	太陽熱温水器 ^{※1}	63	34	-29	-46.0
	携帯電話(PHSを含み、スマートフォンを除く) ^{※2}	2,131	1,207	-924	-43.4
	(参考) スマートフォン	-	1,105	-	-
	食器戸棚(作り付けを除く)	1,391	1,103	-288	-20.7
	洗髪洗面化粧台 ^{※1}	810	648	-162	-20.0
鏡台(ドレッサー)	709	619	-90	-12.7	

※1 平成26年は、平成元年以降に取得したものを調査し、「持ち家」の世帯のみで集計している。

※2 平成21年は、「携帯電話(PHSを含む)」として型式を問わず調査している。

<普及率（当該耐久消費財を所有している世帯の割合）>

2 普及率が高いのは、冷蔵庫、洗濯機、テレビ
普及率の上昇幅が大きいのは、高効率給湯器、空気清浄機

- ・二人以上の世帯について、普及率をみると、冷蔵庫（98.9%）が最も高く、次いで洗濯機（98.8%）、テレビ（98.4%）。（表3）
- ・前回からの普及率の変化をみると、高効率給湯器（+18.8ポイント）が最も上昇し、次いで空気清浄機（+7.8ポイント）。一方、スマートフォンが普及したこともあり、携帯電話（PHSを含み、スマートフォンを除く）（-20.3ポイント）が最も低下。（表4）

表3 主要耐久消費財の普及率
(二人以上の世帯)

	品目	普及率 (%)
普及率が高い 耐久消費財	冷蔵庫	98.9
	洗濯機	98.8
	テレビ	98.4
	電気掃除機	98.1
	電子レンジ（電子オーブンレンジを含む）	97.8
	ルームエアコン	90.0

※ 普及率：二人以上の世帯の中で当該耐久消費財を所有している世帯の割合

表4 主要耐久消費財の普及率の上昇・低下幅
(二人以上の世帯)

	品目	普及率 (%)		上昇・低下幅 (ポイント)
		平成21年	平成26年	
普及率の上昇幅が大きい 耐久消費財	高効率給湯器 ^{※1}	5.1	23.9	18.8
	空気清浄機	34.2	42.0	7.8
	ベッド・ソファベッド（作り付けを除く）	65.2	71.9	6.7
	自動炊飯器（遠赤釜・IH型）	82.8	89.0	6.2
	IHクッキングヒーター ^{※1}	18.2	23.9	5.7
	サイドボード・リビングボード	44.0	49.2	5.2
	太陽光発電システム ^{※1}	1.6	6.6	5.0
普及率の低下幅が大きい 耐久消費財	携帯電話（PHSを含み、スマートフォンを除く） ^{※2}	92.7	72.4	-20.3
	（参考）スマートフォン	-	58.3	-
	食器戸棚（作り付けを除く）	92.0	81.1	-10.9
	鏡台（ドレッサー）	63.0	55.5	-7.5
	洗髪洗面化粧台 ^{※1}	71.2	64.1	-7.1
太陽熱温水器 ^{※1}	6.2	3.4	-2.8	

※1 平成26年は、平成元年以降に取得したもののみを調査している。

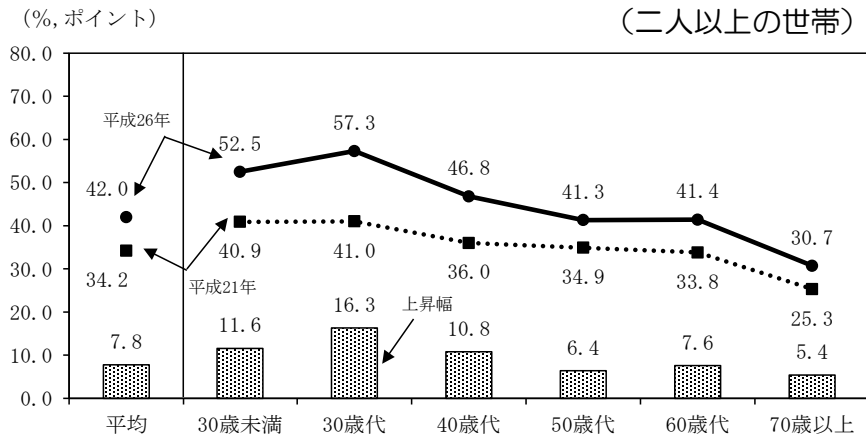
※2 平成21年は、「携帯電話（PHSを含む）」として型式を問わず調査している。

<品目別の主な状況>

3 空気清浄機の普及率は42.0%で、前回と比べて7.8ポイントの上昇
最も高いのは、世帯主が30歳代の世帯

- 二人以上の世帯における空気清浄機の1000世帯当たりの所有数量は554台。(表2)
- 普及率は、前回の34.2%から42.0%となり、7.8ポイントの上昇。(図1)
- 世帯主の年齢階級別に普及率をみると、30歳代で最も高い。(図1)

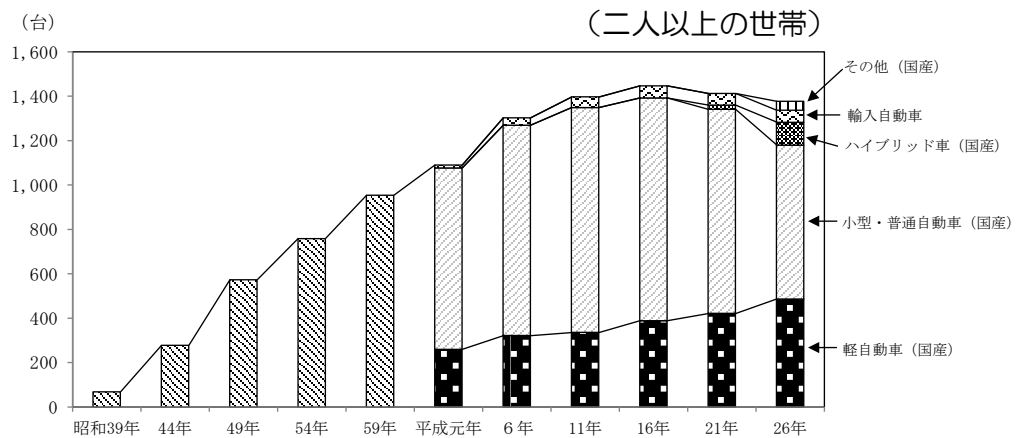
図1 世帯主の年齢階級別空気清浄機の普及率



4 自動車の所有数量は、前回に続き減少
内訳をみると、軽自動車、ハイブリッド車が増加

- 二人以上の世帯について、自動車の1000世帯当たりの所有数量をみると、前回の1,414台から1,377台となり、2.6%の減少。
- 内訳をみると、軽自動車（国産）、ハイブリッド車（国産）が増加。(図2)
- 自動車の普及率は84.8%。

図2 自動車の1000世帯当たり所有数量の推移

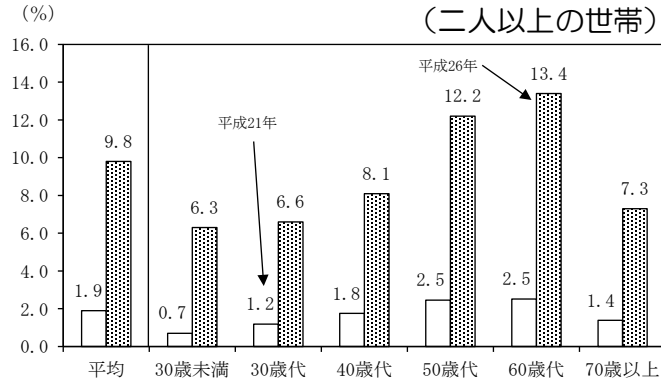


※1 昭和39、44年の所有数量は「乗用車」、昭和49～59年は「乗用車」及び「ライトバン」の値。
 ※2 昭和49年から沖縄県を調査地域に加えている。
 ※3 昭和44年以前の調査では、農林漁業を営む世帯は調査の対象から除外していたが、昭和49年調査から兼業農家を調査の対象とした。昭和59年調査からは、農林漁業を営む世帯を含む全ての世帯を調査の対象としている。
 ※4 平成21年のハイブリッド車(国産)は、ハイブリッド車(国産)及び電気自動車(国産)の合計値。
 ※5 平成26年の「その他(国産)」は、「電気自動車(国産)」及び「乗用車以外(国産)」の合計値。
 ※6 軽自動車は、平成元年が「550cc以下の自動車」、平成6年から21年が「660cc以下の自動車」、平成26年が「ナンバープレートが黄色の自動車」。小型自動車は、平成元年が「551～2000ccの自動車」、平成6年から21年が「661～2000ccの自動車」、平成26年が「ナンバープレートが白色で、分類番号の左から一桁目が5又は7の自動車」。

5 ハイブリッド車の普及率は9.8%で、前回と比べて7.9ポイントの上昇
最も高いのは、世帯主が60歳代の世帯

- ・二人以上の世帯におけるハイブリッド車（国産）の1000世帯当たりの所有数量は103台。
- ・普及率は、前回の1.9%から9.8%となり、7.9ポイントの上昇。（図3）
- ・世帯主の年齢階級別に普及率をみると、60歳代で最も高い。（図3）

図3 世帯主の年齢階級別ハイブリッド車の普及率
（二人以上の世帯）



注：平成21年の普及率は、ハイブリッド車・電気自動車（国産）

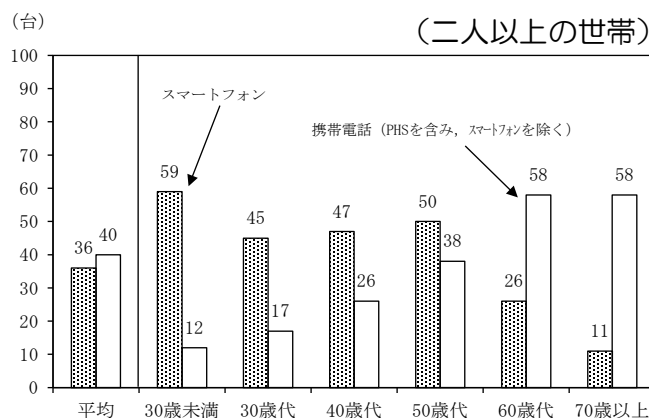
参考：電気自動車（国産）の1000世帯当たり所有数量は2台、普及率は0.2%。

6 二人以上の世帯で、スマートフォンの所有数量は、100人当たり36台
単身世帯で、スマートフォンの普及率が最も高いのは、男女とも若年層

(1) 二人以上の世帯における100人当たり所有数量

- ・二人以上の世帯におけるスマートフォンの100人当たりの所有数量は36台。世帯主の年齢階級別にみると、30歳未満で最も多い。（図4）
- ・一方、携帯電話（PHSを含み、スマートフォンを除く）の100人当たりの所有数量は40台。世帯主の年齢階級別にみると、60歳代、70歳以上で最も多い。（図4）
- ・スマートフォンの普及率は58.3%，携帯電話（PHSを含み、スマートフォンを除く）の普及率は72.4%。（表4）

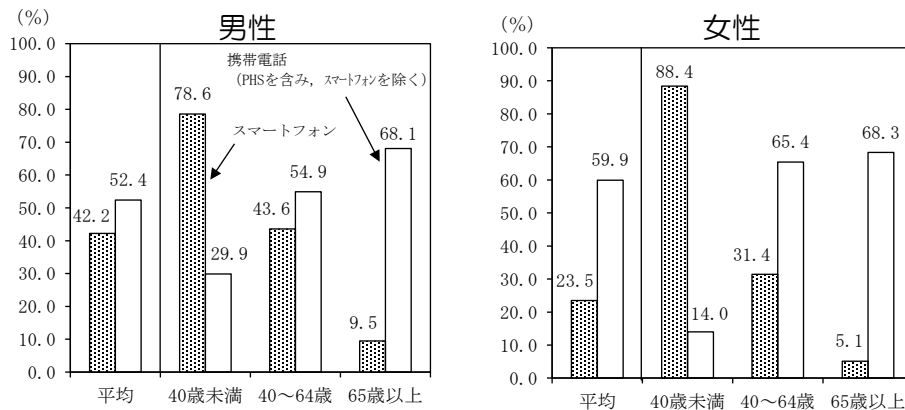
図4 世帯主の年齢階級別スマートフォン・携帯電話の
100人当たり所有数量



(2) 単身世帯における普及率

- 単身世帯におけるスマートフォンの1000世帯当たりの所有数量は、男性で451台、女性で246台。携帯電話（PHSを含み、スマートフォンを除く）の1000世帯当たりの所有数量は、男性で543台、女性で609台。
- スマートフォンの普及率は、男性で42.2%、女性で23.5%。男女・年齢階級別に普及率をみると、男女共に若年層（40歳未満）で高く、いずれも携帯電話を上回っている。（図5）
- 一方、携帯電話（PHSを含み、スマートフォンを除く）の普及率は、男性で52.4%、女性で59.9%。男女・年齢階級別に普及率をみると、男女共に65歳以上で高い。（図5）

図5 男女・年齢階級別スマートフォン・携帯電話の普及率
(単身世帯)



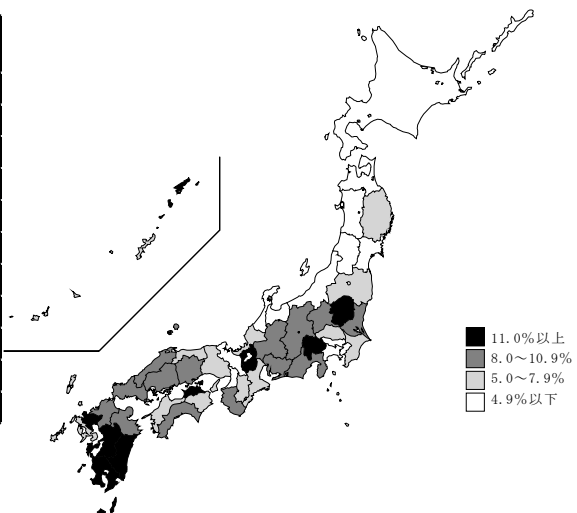
7 太陽光発電システムの普及率が高いのは、宮崎県、佐賀県などの九州地方

- 二人以上の世帯について、都道府県別に太陽光発電システムの普及率をみると、宮崎県（14.3%）が最も高く、次いで佐賀県（13.9%）、山梨県（12.4%）。一方、北海道（1.8%）が最も低く、次いで青森県（2.1%）、新潟県（2.3%）、秋田県（2.3%）。（図6）

図6 都道府県別太陽光発電システムの普及率

(二人以上の世帯)

	順位	都道府県	普及率(%)	所有数量	地域差*
普及率上位	1	宮崎県	14.3	139	216.7
	2	佐賀県	13.9	138	210.6
	3	山梨県	12.4	124	187.9
	4	鹿児島県	12.0	120	181.8
	5	栃木県	11.8	116	178.8
普及率下位	5	熊本県	11.8	117	178.8
	43	石川県	3.2	32	48.5
	44	秋田県	2.3	23	34.8
	44	新潟県	2.3	23	34.8
	46	青森県	2.1	21	31.8
	47	北海道	1.8	18	27.3



* 各都道府県の普及率を全国平均の普及率（6.6%）=100として換算